



第 154 号

歳遊記

さいゆうき

(発行) 愛媛県老人クラブ連合会

〒790-0843 松山市道後町2丁目9番14号
愛媛県民文化会館(ひめぎんホール)別館内
TEL 089-925-7424



新年のごあいさつ

(愛媛県老人クラブ連合会)
会長 佐々木秋由

新年明けましておめでとございます。会員皆様には、お健やかに新年を迎えられたことを心からお慶び申し上げます。

昨年のが国の政治は政局に明け暮れ、混迷を深めました。年末の総選挙で政権の交代が行われましたが、脱原発は後退し、憲法改正が全面に出るなど懸念を感じます。

全国老連は、昨年創立五十周年記念大会を行いました。大会には、天皇・皇后両陛下、総理大臣、衆参両院議長など、国政のトップがご臨席され、陛下

新年明けましておめでとございます。皆様方には、輝かしい新春を健やかに



新年挨拶

愛媛県知事 中村時広

さて、近年、少子高齢化の急速な進行や、人々の価値観、生活スタイルの変化によって、「コミュニティの衰退等

の問題が顕在化しつつありましたが、東日本大震災を教訓に、改めて人と人との絆の大切さが見直され、地域住民が主体的に関わり、互いに支え合う社会をつくっていくことが強く求められています。

下から御言葉がありました。

「今日の高齢者は、私もその一人でありますが、多くの人命が失われた悲惨な戦争によって荒廃した国土から立ち直っていく我が国と歩みを共にし、平和の大切さを身にしみて育った世代

です。皆様が老人クラブの活動を通じて、幼いとき、或いは青年として経験したことを、直に子供たちや若い世代の人々に伝えていくことは、わが国のため極めて大切なことだと思います。」

と述べられ、会場一同は、強い感銘を受けたところで、未曾有といわれた東日本大震災の復

旧は未だ道半ば、一刻も早い復興を求めると共に、老人クラブも引き続き支援を送る所存です。

私たちはこれまで住み慣れた地域で、多くの仲間たちと生きがいのある生活を願い、健康づくり大学校、相互支援セミナー、スポーツ大会、交通安全

故防止、会員増強など多様な運動に取り組んできましたが、高齢者を取り巻く環境は悪化し、孤独死や、認知高齢者の増加など、現行制度の不備が叫ばれ、社会保障制度の抜本的改革が急が

れます。

私たちは皆様と共に、地域の支え合いの輪を広げ、各団体と連携し高齢者の尊厳が守られる社会の実現に努めてまいります。

終わりに、老人クラブのますますの発展と、会員皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。

ビスが切れ目なく提供できる「地域包括ケアシステム」の構築などに努め

地域でもともに生き、支え合う社会づくりを推進しているところです。

どうか皆様方におかれましては、こうした県の取り組みに御理解を賜りま

すとともに、いつまでもお元気で、地域社会を支える担い手として、これまでつちかわれた豊富な知識と経験を存分に生かし御活躍いただき、今後とも本県の高齢者福祉向上と地域活性化に御尽力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、財団法人愛媛県老人クラブ連合会並びに各単位老人クラブのますますの御発展と、会員の皆様方の今年一年の御健勝、御多幸を祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。

第52回 愛媛県老人クラブ大会

盛況裡に開催

メインテーマ 創造と連帯の輪を広げてー心豊かな21世紀を

去る九月六日、ひめぎんホールサブホールにて、県下市町老連から会員九百名が参加して第五十二回愛媛県老人クラブ大会が開催されました。

大会では、まず参加者全員による国歌斉唱のあと、物故された老人クラブ関係者に対し黙とうを捧げました。そして佐々木秋由県老連会長の挨拶に続いて、老人クラブに貢献された個人、団体等に対する表彰が行われました。

表彰の内訳は以下の通りです。(知事表彰として高齢者福祉関係功労者十四名、会長表彰として優良老人クラブ十九クラブ、老人クラブ活動功労者四十名、寝たきり老人優良介護者十五組、会員増強クラブ百十五クラブ)

式典の後は、愛媛大学名誉教授であり現在聖カタリナ大学人間健康福祉学部の特任教授として教鞭をとる久保玄次教授により「今日から始める健康法」心と体のリラククス」と題した講演が行われました。この中で久保教授は

「リラククスは心身のバランスをとる働きをする自律神経と連動しており、ストレスの多い現代社会においては意図的にリラククスを取り入れることが健康増進に有効である」と話し、簡単に取り入れることのできるいくつかのリラクゼーション方法について、ときおり身振り手振りの実演を交えながら指導を行いました。

講演に続いて愛媛県警察本部交通安全課、安全・教育補佐の八塚能安警部による交通安全講話があり、当県において高齢者が交通事故に巻き込まれる割合が非常に高いことに触れ、あらためて参加者に対し注意喚起を呼び掛けました。

最後に、地域社会と連携して安心安全の地域づくりを推進し、支え合い助けあいの輪を広げていくことなどを誓う大会宣言を採択して、大会は盛況裡に幕を閉じました。

愛媛県知事表彰受賞者氏名 (敬称略) 十四名

- 松山市 高野美喜子
- 松山市 篠崎 英夫
- 今治市 山脇 清子
- 宇和島市 鈴木 季久
- 宇和島市 清家源太郎
- 八幡浜市 泉 香
- 新居浜市 瀬分雪三郎
- 西条市 北 ヤヨ子
- 西条市 村上 要
- 大洲市 西尾 義繼
- 伊予市 高岡小夜子
- 伊予市 武田 弘
- 四国中央市 鈴木 隆義
- 東温市 束村喜代文



第52回 愛媛県老人クラブ大会

第52回愛媛県老人クラブ大会 大会宣言

二十一世紀を迎え、本格的な少子高齢化が叫ばれて久しいが、我が国は今や高齢化社会のはるか先を行く「超高齢化社会」に突入している。厳しい社会経済情勢に加え、未曾有の大災害がもたらしたさまざまな破壊とその後の社会の混沌は、かつてないほど日本人から自信と気力を奪っている。

しかしその反面、震災は、忘れつつあった日本人の強さ、地域における人と人との絆の大切さを思い出させてくれた。いま被災地では、老人クラブの灯を消すな、を合言葉に高齢者同士の支え合いを深め、新たなクラブを立ち上げて、仲間つくりの第一歩を踏み出さんと動き始めている。老人クラブの原点が今ここにあり

るといえる。

高齢者の社会的孤立がもたらすものは「生きがいの低下」「高齢者の消費者被害」「高齢者による犯罪」「孤立死」といわれる。高齢者の中核的存在である老人クラブが、高齢者が安心して暮らせる地域づくりにとだけ貢献できるか、超高齢化社会、日本を救う鍵となるのか否か、高齢者の健康、福祉、文化を支える原動力として、今、老人クラブの真価が問われている。

二に、第五十二回愛媛県老人クラブ大会に県下九万七千人の会員代表が相集い、決意も新たに、次のことを宣言する。

- 一、クラブ五人増を目指し、会員一人ひとりが協力して会員増強に積極的に取り組もう
- 一、地域社会と連携し、安全・安心の地域づくりを推進しよう
- 一、「健康づくり活動や「友愛活動」を地域社会へ普及・拡大させよう
- 一、若手会員や女性会員を積極的に登用し、次なるリーダーを育てよう
- 一、全国の老人クラブの仲間と手を携え、被災地支援の輪に積極的に加わろう
- 一、老人クラブ活動として、あらゆる機会を通じて交通安全対策に取り組もう

平成二十四年九月六日 第五十二回愛媛県老人クラブ大会

全老連創立50周年記念 全国老人クラブ大会開催!!

天皇・皇后両陛下ご臨席 東京・日比谷公会堂に二千人が集つ

平成二十四年十月四日、東京の日比谷公会堂で全国老人クラブ大会が開催され、全国から一千人の参加者が集いました。四十一回目となる今大会は全

老連創立から五十年という節目の年にあたることから、全老連創立五十周年記念大会として、天皇・皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、野田佳彦内閣総理大臣(当時)、横山孝弘衆議院議長(当時)、平田健二参議院議長他多くの来賓が出席されるなど、厳粛かつ華やかなものとなりました。

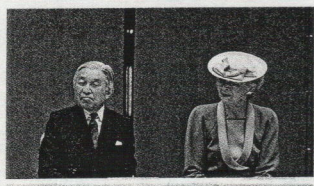
老連創立から五十年という節目の年にあたることから、全老連創立五十周年記念大会として、天皇・皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、野田佳彦内閣総理大臣(当時)、横山孝弘衆議院議長(当時)、平田健二参議院議長他多くの来賓が出席されるなど、厳粛かつ華やかなものとなりました。



元NHKアナウンサーの加賀美幸子氏が司会を務めるなか、午前十一時三十分、参加者一同が起立して天皇・皇后両陛下をお迎えし、力強い国歌斉唱ののち、開会のご挨拶によって第一部式典は幕を開けました。最初に斎藤十朗全老連会長による式辞があり、そして天皇陛下から直々のお言葉を賜われました。続いて三井雄雄厚生労働大臣(当時)の主催者挨拶、創立五十周年記念表彰が行われました。厚生労働大臣表彰では二百十八名、全老連会長

表彰では二百三十四名の方々が栄えある表彰を受けられました。公務多忙な中を「出席いただいた野田内閣総理大臣、横山衆議院議長、平田参議院議長のご来賓からは、これまでの活動に対する高い評価とともに、今後の老人クラブへの期待が込められた祝辞を頂戴しました。天皇・皇后両陛下のご退席の際には会場から万歳三唱が沸き起り、歓喜に満ちた声が高らかに会場に響きわたりました。

- ◎本県受賞者
 - ◆厚生労働大臣表彰
 - 清水 静 (愛媛県老人クラブ連合会会長)
 - 田坂正教 (高知県老人クラブ連合会会長)
 - ◆優良単位クラブ表彰
 - 本浦老人クラブ(弥生会第9クラブ) (今治市)
 - ◆優良老人クラブ連合会表彰
 - 新居浜市老人クラブ連合会
 - ◆全老連会長表彰
 - 高田 有 (鬼北町老人クラブ連合会会長)
 - ◆優良老人クラブ表彰
 - 上樋老人クラブ (東温市)



第一部では作家の重門冬二先生による「いま、日本に求められるもの」歴史から学ぶ人間関係」と題した記念講演が行われました。

その後大会宣言採択に続いて、岩井県宮城県、仙台市、福島県の被災四県市老連の会長に、都道府県・指定都市老連からのメッセージが記された震災復興応援旗が贈呈されました。最後に、次年度開催県である岩手県老連会長挨拶、閉会のご挨拶でもって記念大会は盛装裏に終了しました。

採択された大会宣言実践事項

- 一、健康長寿をめざす「健康づくり・介護予防活動」の推進
- 一、ふれあい・語りあい・思いやる「地域支え合い活動(友愛)」の展開
- 一、高齢者相互の連帯と「自己実現をめざす活動」の場づくり
- 一、「高齢者の尊厳が守られる社会保障制度」の確立

天皇陛下おこぼ

全国老人クラブ連合会の創立五十周年に当たり、皆さんと共にこの記念大会に臨むことをうれしく思います。五十年にわたる関係者のためみない努力によって、老人クラブが全国に普及し、各地において高齢者の社会参加や健康の保持に貢献してきたことは、誠に喜ばしく、この度表彰を受けられる皆さんを始め、多くの関係者の尽力に対し、深く敬意を表します。

多くの高齢者が、老人クラブの様々な活動を通じて、子どもたちや、若い世代とも交流しながら、積極的に社会参加を進めていることは非常に心強いことでもあります。老人クラブが、豊かで活力のある社会を築くために、引き続き大きな役割を果たすことを期待しております。

今日の高齢者は、私もその一人でありますが、多くの人命が失われた悲惨な戦争によって荒廃した国土から立ち上がって行く我が国と、歩みを共にしてこられました。私も若いときに平和の大切さを身にしみて育った世代です。皆さんが老人クラブなどの活動を通して、それぞれ幼いときに、あるいは青年として経験したことを、直に子どもたちや若い世代の人々に伝えていくことは、我が国のために極めて大切なことと思われまます。



会員の皆さんには、くれぐれも健康に気を付け、将来にわたって元気に過ごされるよう願うとともに、全国の老人クラブの活動がより一層発展することを期待し、大会に寄せる言葉といたします。

第54回四国老人クラブ大会

今年度は高知県で開催、愛媛県から四十四名が参加

四国老人クラブ大会は八月八日に高知県高知市の三翠園にて開催されました。参加者は三百八十三名、本県からは四十四名が参加し、盛大な大会となりました。大会は、大会長である高知県老連の加藤美代治会長の開会あいさつ、表彰、来賓祝辞などの式典があり、続いて次

- 本県の
 - ◆四国老人クラブ大会長表彰受賞者
 - 高田 有 (愛媛県老連常任理事)
 - ◆四国老人クラブ大会長表彰受賞者
 - 沖本敏春 (愛媛県老連常任理事)
 - 兵頭義彦 (愛媛県老連監事)
 - 八幡濱市保内町会長



史氏による記念講演「住民主体の介護予防」が行われました。そして、休憩をはさんで各県の活動事例発表

平成24年度中国・四国ブロック 老人クラブリーダー研修会

平成二十四年度中国・四国ブロック老人クラブリーダー研修会が、七月五日・六日の二日間にわたって徳島県鳴門市において開催され、本県からは四十四名が参加しました。初日は開会式に続いて全老連事務局局長齊藤秀樹氏から「老人クラブ五十年 仲間づくりを原点に」と題して基調報告があり、その後四つの分科会に分かれての研修がありました。

そのうち第四分科会では「高齢者による安心・安全なまちづくりの推進」

平成24年度愛媛県老人クラブ スポーツ大会の結果について

十月二十三日、愛媛県総合運動公園を会場に、五つの種目で優勝を争いました。一週間前から週間天気予報を毎日にとらみ、どうか雨が降りませんようにと願っていたのですが、予報通り、当日正午過ぎまで雨が残ってしまいました。この悪天候のため、出場予定チームの内七チームが参加できませんでした。しかし県下市町老人クラブから出場した選手約七百六十人はグラウンドコンディションの悪い中でも熱戦を繰り広げました。

開会式には、来賓として愛媛県知事 中村時広氏（保健福祉部いきが推進局長が代理）が臨席され、祝辞をいただきました。

マクローケターの部

優勝 美川林（久万高原町）

準優勝 久家A（愛南町）

第三位 千足（砥部町）

▽ゲートボールの部

優勝 五月会（伊方町）

準優勝 高崎会（松山市）

第三位 今治しまなみ（今治市）



▽グラウンドゴルフの部

優勝 市坪老友会（松山市）

準優勝 生石宮前老友会A（松山市）

第三位 新居浜中秋B（新居浜市）

▽ペタンクの部

優勝 宮野下村土居（宇和島市）

準優勝 東石井長寿会B（松山市）

第三位 戸雁佐竹（宇和島市）

▽公式ワナゲの部

優勝 田之浜B（宇和島市）

準優勝 新居浜船木D（新居浜市）

第三位 湊浦（伊方町）

平成24年度「愛媛県 老連健康づくり大学 校」西条市東予地区 にて開校

愛媛県老人クラブ連合会では、平成二十四年度より高齢期の健康づくりに必要な知識の習得や能力開発、また老人クラブ活動に必要な知識を持つリーダーを養成することを目的に、「健康づくり大学校」を開校しています。平成二十三年度までの卒業生は、延べ四百八十四名となりました。

今年度は西条市において開催されました。八月から十二月までの間に十一日間、「老人クラブの現状」や「介護の知識」「健康づくり」「一般教養」「運動やレクリエーションの実習」等を学習しました。この機会に知識の習得はもちろん、新しい友達づくり、組織づくり等老人クラブの活動に活用していただきたいと思っています。



仲間づくりのきっかけになるような「軽スポーツを楽しむ」の講座では、NPO法人愛媛県ディスプレイ協会の指導者に来て頂き、汗をかきほどの熱戦を繰り広げました。

平成二十五年度は八幡浜市で開催予定です。

問い合わせ先…愛媛県老人クラブ連合会（電話089-925-7424）

データからみる《平成24年度県老連健康づくり大学校》

平成二十四年度は、西条市東予総合福祉センターを会場に八月二十八日から十二月十三日の間（延べ十一日間・四十二時間）に開校しました。受講申込者は六十五名、内訳は男性三十七名・女性二十八名、平均年齢七十六・三歳の方でした。出席の単位不足の方三名を除き、九十歳から六十七歳の六十二名の方が卒業され、そのうち二十六名の方は欠席もなく、全過程を終了されました。

アンケート調査結果（回収五十一人）

大学校に入校した「きっかけ」は

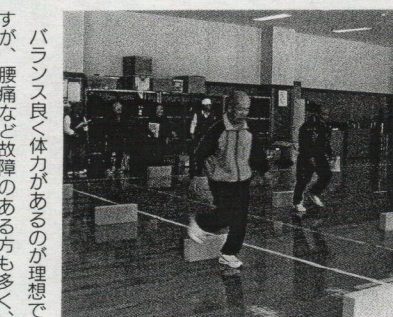
- ・所属老連から勧められて……四十三名
- ・会員などから誘われて……五名
- ・自分から希望して……四名
- ・入学した「動機」は

- ・老人クラブ活動を活性化するため……十五名
- ・自分自身の教養を高めるため……三十五名
- ・大学の学習内容は満足している……四十八名

高齢者の体力測定について

椅子や床から立ち上がり、歩行ができ、外出することができ、健康で生きがいのある生活を過ごすためには、それに必要な体力が必要です。その体力を保つためには、まず自分の体力を客観的に評価する必要があります。

県老連では、平成十九年度から毎年「高齢者の体力測定」普及啓発事業を実施しています。まず県老連がモデル地区を指定し、一モデルあたり三十人から五十人の参加者に対し二年間で四回の体力測定を実施します。同じ人が継続的に体力を測定することで、参加者は自分の体力の変化や弱いところを知ることができます。それにより自分の体に合わせて、積極的に体力の維持



持を図ってもらうのが目的です。県内二十市町のうち、すでに十五市町が終了し、三市町が現在継続中です。

バランス良く体力があるのが理想ですが、腰痛など故障のある方も多く



振り込め詐欺 高齢者の被害多し!

あわてない! 1人で判断しない! 相談する!

愛媛県内において、高齢者を狙った詐欺が多発しています。特に、高齢者が狙われやすい詐欺の手法は、次の3つです。
①息子や孫を装い「急にお金が必要になった」と言って騙す「オレオレ詐欺」、
②市役所職員等を装い、医療費や保険料の払い戻しがあると偽りATMへ誘導させる「還付金詐欺」、
③株や社債、外国通貨購入等によるもうけ話を持ちかける「利殖勧誘詐欺」です。お金の絡む電話がかかってきたら、まずは一呼吸おいて、「もしかして詐欺かも!？」と身構え、家族や警察に相談しましょう。

効果の高い被害防止対策 在宅時も留守番電話に設定

犯人と直接話しをしないため、時間と気持ちに余裕が生まれます。お金を振り込む前に家族に確認、警察に相談をしましょう。

平成24年度高齢者相互支援事業について

県老連は、引きこもりがちな高齢者を地域で支えるため、モデル地区を指定して友愛活動を行う「高齢者相互支援推進事業」を毎年実施しております。

これは、老人クラブ会員が地域の一人暮らしを引きこもりがちな高齢者等を訪問して、必要な情報を届けたり話し相手となったりして、地域社会の絆を保つとともに、高齢者同士の支えあいの輪を広げていこうという活動です。

本年度はモデル老連として上島町伊予市双海町、宇和島市津島町が指定され、それぞれの地域に即した独自の活動を展開しています。

県老連ではまず、今後事業を進めるにあたり中心的役割を担うシルバリーリーダーをモデル老連(以下)に約二十名選任し、八月中旬から下旬にかけて各モデル町において相互支援推進連絡会議とリーダー養成セミナーを開催しました。

セミナーでは、シルバリーリーダーのみならず一般の会員も参加して、県生涯学習講師による講演や活動の進め方を丁寧に解説したビデオの上映が行われ、参加者は皆、熱心に耳を傾けていました。

県老連女性委員会開催される

県老連女性委員会が任期満了となり、去る三月二十八日に開催された県老連理事会において各市町老連から推薦のあった十二人の方が新たに女性委員に選任されました。任期は平成二十六年三月三十一日までの二年間です。

翌三月二十九日には早速女性委員会が開催され、今回新しく選任された女性委員の初顔合わせとなりました。まずは新役員が互選され、前期女性委員

また三月八日には、各モデル老連のシルバリーリーダーが一堂に集し活動報告を行う「高齢者相互支援活動啓発セミナー」が、松山市のひめぎんホールにて開催されました。例年このセミナーは主としてモデル地区の関係者を対象に開催しておりますが、この友愛活動をより多くの会員に知ってもらい、それぞれの地元でのクラブ活動に活かしてもらおうと、今年度は特別に女性リーダー研修会と併せて開催することになりました。このセミナーでは、活動事例発表の他、兵庫豊淡路市から池脇政子先生をお迎えし、地域助けあい活動についての講演も行われる予定です。



長を務めた伊予市の高岡小夜子氏と副委員長だった西条市の北ヤヨ子氏の二人は前期に引き続き留任となり、南予地区選出の副委員長には新たに八幡浜市の酒井スナヲ氏が選出されました。

選出された女性委員長は県老連の副会長を、また副委員長は理事をそれぞれ務めることとなります。

県老連の公益財団法人移行について

愛媛県老人クラブ連合会は、本年四月一日付での「財団法人」から「公益財団法人」移行を目指しており、現在移行作業は最終局面に入っております。

明治二十九年の民法制定以来百余年にわたり抜本的な見直しが行われず、時代の変化に対応できなくなっていた公益法人制度ですが、平成二十年十二月に制度改正が行われ、これまでの公益法人は「特例民法法人」として、平成二十五年十一月末までに公益法人か一般法人のどちらかに移行、もしくは解散しなくてはならなくなりました。

県老連は公益法人移行を目指し、平成二十年十一月から、公益法人会計基準の導入、「定款」の作成、公益法人としての組織づくりなど様々な検討・準備を重ね、平成二十四年十二月十二日、満を持して、県知事に対し公益財団法人への移行認定申請書を提出しました。今後、県公益認定等審議会での審査を経て県知事に答申され、三月中旬に県知事の認定を見込んでおります。

公益法人に移行すると、これまで以上に地域の高齢者の福祉増進に貢献することが求められます。市町村老連、各単位クラブにおかれましても、なお一層、活動の際などに地域の高齢者にも参加を呼び掛け、老人クラブが「地域の高齢者広場」としての役割を担えるような取り組みをお願いいたします。

事務局のついで

明けましておめでとございませぬ。遅くなりましたが、平成二十四年度版愛媛県老連だより「歳遊記」を皆様にお届けいたします。本年度も何卒よろしく願っています。

平成二十四年は一言で表現するならば、記憶と記録に残る年でした。まずは高齢者スポーツ大会。この大会は平成五年に「ふれあいスポーツフェスティバル'93」として始まり、その後名称を変えて現在まで続いてきたものですが、驚くべきことに、この二十年間、度として雨天に見舞われた事はありませんでした。平成十六年、大会二日前に接近した台風によって東予地方を中心に甚大な被害を被った時でさえ、大会当日は快晴だったので。

二十回目の節目の年は、なんと大会史上初の雨天決行となりました。週間予報では、大会の日だけがずっと雨マーク、主催者としては悩ましいところですが、中止すれば今年度の開催は事実上不可能になること、前日の準備の日が晴れていたことや、大会日の前日予報が「雨のち晴れ」だったことなどの理由から、賭けてみることにしたのです。

当日は早朝から予想以上の悪天候でしたが、ここまできたら後には引けません。それでも三十分遅れで始まった開会式の時はいかれました。しかも、今さらながら老人クラブ会員の元気パワー、たくましさには驚かされました。皆さん、小雨の降る中、平気の平左といった風で黙々とプレーされているのですもの。日本の高齢者恐るべしです。

午後には雨も上がり、なんとか無事に大会を終える事が出来ました。

初めての雨中の大会は、主催者にとっても貴重な経験でした。もっとも、その後の後片付けは悪戦苦闘の連続、例年とは比べ物にならないくらい大変な作業となりましたが、さて、二つ目は天皇皇后両陛下をお迎えしての全国大会です。やはり両陛下ご臨席ともなると準備段階から全老連の気合が違います。また大会が始まってからも両陛下に見苦しいところはお見せできないと、自然と背筋も伸びますし私語の一つも聞かせません。通常は伴奏とずれていくことが多い君が代斉唱も、いっぴなく完璧に言葉と合っていて声にも心がこもり、参加者全員の気迫がびしばし伝わってきます。両陛下の前で肩力が入ってしまうのは並みいる大臣方も同様らしく、主催者挨拶では最後の段になって平成を昭和と言いつつ聞えるハッピンングも...。

天皇陛下からありがたいおこたを頂戴し、お見送りの際には会場中に割れんばかりの万歳三唱が響き渡りました。両陛下と老人クラブの前途に幸あらんことを心よりお祈り申し上げます。◎

老人クラブ会員の皆さまへ

平成24年7月1日改定

(平成24年6月1日以降のお申込みから適用)

老人クラブ傷害保険

手頃な掛金で充実の補償、あなたにピッタリのタイプは

ど・ち・ら?

クラブ活動型

クラブの行事や活動によく出かけるという方におすすめ

年間掛金 500円・1,000円・2,000円

総合型

(クラブ活動型) + (24時間型)

24時間いつでも、どこでもケガが心配という方におすすめ

年間掛金 3,500円・5,000円・10,000円

全国老人クラブ連合会 保険係

03-3597-8770

受付時間 9:30~17:30 (土、日、祝祭日休)

(取扱代理店) 有限会社 シニアサーブ社 電話番号 03-3597-8768

FAX番号 03-3597-8767

(引受幹事会社) 東京海上日動火災保険株式会社

(担当課) 医療・福祉法人部 法人第二課 電話番号 03-3515-4144

●この広告は老人クラブ傷害保険(老人クラブ団体傷害保険特約付帯普通傷害保険・普通傷害保険)の概要についてご紹介したものです。詳細は「募集チラシ(平成24年7月1日発行以降用)」「重要事項説明書」にご加入の際の注意事項をお読みください。ご不明な点等がありましたら、取扱代理店、引受幹事会社までお問い合わせください。全老連保険ホームページ(<http://www.senior-ltd.com/>)でもご確認ください。